

## 「FLIP 研究会 14 年間の検討成果のまとめ」正誤表

(2025.8.6 更新)

下記のとおり、誤記を訂正致します。

No.	訂正箇所	誤	正	修正日
1	『事例編』 p.2-5-4 表 2-5-1-6	$Kf=2.2 \times 10^{-4}$ (kPa) 以下の小さな値	$Kf=2.2 \times 10^4$ (kPa) 以下の小さな値	2016.10.20
2	『事例編』 p.2-4-9 式 (2-4-13) 式 (2-4-14) 図 2-4-9	$p_{su}$	$P_{us}$	2016.10.20
3	『理論編』 p4-14	「4-3 線形ばね要素」の「(2)線形ばね要素を使用する際の注意事項」についての記述。	別紙「【理論編】4-3(2)線形ばね要素を使用する際の注意事項_修正版」のとおり、差し替え。	2019.4.22
4	『事例編』 p.3-2-3 1)置換砂の パラメータ	N 値 (N=15)	N 値 (N=12)	2022.8.16
5	『理論編』 p.4-30 式 (4-7-7) 左辺 第 4 項	$\{\bar{f}_s\}$	$-\{\bar{f}_s\}$	2024.9.9
6	『理論編』 p.4-30 式(4-7-10)	$-\frac{1}{\rho} S^T G^{-1} S$	$\frac{1}{\rho} S^T G^{-1} S$	2024/9/9

No.	訂正箇所	誤	正	修正日
7	『理論編』 p.2-4-43 2-4-3 SRI 法	そこで、SRI 法では、せん断変形に 関係する偏差成分を $1 \times 1$ の積分点 (1 次の積分) を、体積変化に関 係する平均成分には 4 点の積分点を 設定する ( $2 \times 2$ ) 方法を用いる。	そこで、SRI 法では、体積変化に関 係する平均成分に $1 \times 1$ の積分点 (1 次の積分) を、せん断変形に関 係する偏差成分に 4 点の積分点を 設定する ( $2 \times 2$ ) 方法を用いる。	2025/8/6